

平成29年度第1回尾道市総合教育会議議事録

日 時 平成29年11月21日(火)午後2時30分 開議

場 所 尾道市教育会館2階 会議室

午後2時30分 開会

川鱈庶務課長 ただいまから平成29年度第1回尾道市総合教育会議を開会いたします。

初めに、本会議の主宰者であります平谷市長から挨拶をお願いいたします。

平谷市長 皆さんこんにちは。お忙しい中、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。尾道市の総合教育会議の開会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

皆さん御承知のとおり、日本全体は少子化、あるいは高齢化という問題と、そして新たにグローバル化という形で、社会が急速に、非常に速いスピードで進展をしていると思っています。企業においても、あるいは国内だけの産業ではなくて、逆に海外での立地とかという話になっていますので、これから日本が進んでいくまちづくりの中で、教育が占める割合は、その町の、いわゆる地方創生であったり、これからの将来にわたって非常に重要な位置を占めていると思っています。尾道におきましては、就学前、それから義務教育、あるいは高等教育、大学も含めまして、全てにそろった町でございますので、尾道市のまちづくりとしては、そういった子供を育成するというスタイルの軸をどのように持って市民ニーズに応え、また逆にそれが尾道のまちづくりの、いわゆる核になるような取組が求められていると思っています。

そういう中で、尾道市としては今後10年間の最上位計画である尾道市総合計画を本年3月に策定したところでございます。これは、もちろん議会に承認をいただいた計画をもとに今取組を進めていますが、今後は見直しをしながら取組をしていくこととなります。それにあわせまして、教育委員会におかれましては3月に尾道教育総合推進計画が策定されたところです。尾道市総合計画や昨年度の総合教育会議で策定した尾道市教育大綱とあわせて、スローガンとしている「尾道に愛着と誇りを持ちグローバルに躍動する人づくり」を目的とした施策・事業の確実な執行のため、市長の事務部局等と連携して取り組んでいくこととしております。

これからは、教育委員会、尾道市はさらに連携を密にして、その取組が非常

に重要な時期になってきていると思っています。認定こども園を一つとっても、市の子育て支援、あるいは教育委員会が連携して一緒になって取り組むということでございますので、市民にとっては行政の縦割りは余り関係ないということですので、市民の目線をもとにして、安心できる教育環境をつくっていくことが求められていると思います。

本日は、昨年度策定いたしました教育大綱に規定しております市全体で連携して取り組む教育施策の推進の7つの項目及び学力の向上について協議を行う予定としております。現状の取組についての理解を深めるとともに、今後の展開について御議論をいただきたいと思っています。皆様の忌悼のない御意見をいただき、そのことをもとにして、この後事務局等より具体的な施策提案を進めていきたいと思っておりますので、日ごろ思っているようなことを委員の皆様方に御意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

川籬庶務課長 それでは、議事に入りたいと思います。尾道市総合教育会議運営要綱第3条に基づき、これより平谷市長が議事進行を行います。

平谷市長 それでは、協議に入りたいと思います。本日は、市全体で連携して取り組む教育施策についてと学力の向上についての2つを大きな柱として協議を進めていきたいと思っています。協議の進め方について説明をお願いいたします。

事務局 それでは、協議の進め方について御説明申し上げます。資料の4ページをお開きください。この協議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項第1号に基づき、教育に関する重点的に講ずべき施策について、市長と教育委員会が意思疎通を密にすることにより、教育課題を共有し、連携して教育施策を推進することにあります。

さて、本日協議をお願いしたい項目は2件ございます。4ページに記載の市全体で連携して取り組む教育施策についてと、15ページに記載の学力の向上についてでございます。

まず、協議1、市全体で連携して取り組む教育施策については、昨年度制定した尾道市教育大綱に規定しております市全体で連携して取り組む教育施策の推進の7項目でございます。6ページ以降に資料を添付しております。時間の都合上、協議項目の から 及び を一括して庶務課長から説明し、今後の連携について御確認いただき、その後協議項目 と について担当課長から説明し、意見交換等を含め、各10分程度でお願いしたいと思います。

続いて、15ページの協議2、学力の向上についてを担当課長から資料をもと

に説明し、その後、意見交換等をお願いしたいと思います。最後に、市長の総括をいただき、15時40分ごろ閉会の予定としております。以上です。

平谷市長 とか というのは、4ページでは括弧で表示されているのですね。

事務局 はい、そうです。

平谷市長 それでは、協議1、市全体で連携して取り組む教育施策についてを議題としますので、説明をお願いします。

川籬庶務課長 議長、庶務課長。それでは、協議項目2から5及び7について、一括して説明を申し上げます。

資料の8ページからでございます。日本遺産をはじめとした本市の特性を生かした芸術・文化活動の連携の推進について説明をさせていただきます。まず、市長部局における取組として、日本遺産の普及啓発を図るため、展示会、シンポジウムの開催や小・中学校に講師として出向き、日本遺産を通じた文化財愛護精神の育成を図っております。教育委員会の取組ですが、市内の美術館の連携の充実に努め、各美術館の情報提供や小学生への教育普及活動を実施しております。日本遺産認定に関する歴史講座の開催、尾道芸術祭などで市長部局と連携をしております。

郷土を愛する心を育てる学校の取組の充実、美術館との更なる連携を課題として捉えており、今後の方向性としては、学校におけるふるさと学習の充実のため、より多くの学校で講座を開催できるよう市長部局と教育委員会の連携を深め、児童・生徒の郷土意識の向上を図ります。また、芸術・文化に触れる機会を広く提供するため、美術館との連携事業の拡大を検討してまいりたいと考えております。

続きまして、協議項目3、尾道市立大学をはじめとした高等教育機関との連携による生涯学習の機会の充実についてでございます。資料9ページをごらんください。尾道市立大学の取組ですが、地域との活発な交流及び人材育成として、公開講座等を数多く実施し、市民に生涯学習の機会を提供しています。市内の小・中学生に対してもワークショップを開催するなど、教育機関との連携も図っております。教育委員会の取組としては、まちづくり・人づくり・ボランティアに関する講座の開催や、小学生がまちづくり発表会に尾道市立大学生と参加するなど連携を深めております。

ICTを有効に活用した授業及び生涯学習の取組、プログラミング教育等における学校との連携を課題として捉えており、今後の方向性としては、生涯学習におけるICTの活用、学校教育におけるICTの活用やプログラミング教

育の推進について、専門性を有する大学の協力は重要なため、今後積極的に連携を深めてまいりたいと考えております。

次に、資料の10ページをごらんください。まちづくりに資する人材育成に関する連携の推進について説明させていただきます。市長部局における取組ですが、協働のまちづくり講座等の開催により、地域を支える人材を育成しております。また、生涯学習課のおのみち市民大学との連携として、若者チャレンジ講座を開催し、まちづくりの担い手育成を推進しています。教育委員会の取組ですが、おのみち市民大学における連携や、学校において地域に貢献する活動を推進することを通して、社会に貢献する意欲を育成しております。

地域の人材育成のためのさらなる連携、学校と地域の交流促進を課題として捉えており、今後の方向性としては、地域の教育力向上とまちづくりの担い手育成のため、市長部局と教育委員会の連携を推進するとともに、学校と地域の交流促進について、小・中学校の総合的な学習や地域貢献活動の中で社会性やコミュニケーション能力の育成を図る活動を継続してまいりたいと考えております。

次に、資料11ページをごらんください。防災・安全に関する連携の推進について説明をさせていただきます。市長部局の取組として、市内小・中学校で防災に関する出前講座の実施、体験型の尾道市防災フェアの開催、小学生・園児を対象とした交通安全教室を開催しております。教育委員会の取組ですが、児童・生徒みずからの安全を守るための知識、判断力を身につけさせる指導の推進、定期的な避難訓練等の実施により、安全に関する取組の推進を図っております。また、尾道市通学路交通安全プログラムにより、児童・生徒が安全に通学できるように、市長部局や関係機関が連携して通学路の安全確保を図っております。

防災・安全教育における地域との連携の促進を課題として捉えており、今後の方向性として、市内の学校では引き続き地域と連携した避難訓練の実施を促進し、市長部局と連携した防災教育の内容の充実を検討します。また、通学路の安全確保など、市・学校・地域が一体となって防災・安全に関する連携をさらに推進してまいりたいと考えております。

次に、資料の14ページをごらんください。協議項目7、子どもの貧困対策に関する連携の推進について説明をさせていただきます。市長部局における取組として、全ての子どもたちが夢と希望を持って成長する社会の実現を目指し、子どもの貧困対策を総合的に推進しています。平成28年度に実施したアンケート結果を踏まえ、貧困対策プロジェクトチームが市長に対して子どもの貧困対

策に関する提言を行いました。また、さまざまな課題を抱える家庭の子どもたちが、負の連鎖を断ち切るために必要な自立する力等を身につけることを目的とした子どもの居場所の設置を支援しております。教育委員会の取組ですが、貧困対策プロジェクトチームへの参画や、全ての子どもが希望に満ちた将来を思い描ける社会を実現するために、就学援助費の支給を初め、各種の取組を行っております。

子どもの貧困対策の充実を課題として捉えており、今後の方向性として、尾道市の未来を担う子どもたちが夢と希望を持って成長していくことができるよう、関係課が提言書の方向性を共有し、市内部での連携を強化して事業を確実に実施してまいりたいと考えております。以上で説明いたします。

平谷市長 ただいま市全体で連携して取り組む教育施策の2から5及び7について説明がございましたが、これについて御意見がありましたらお願いをします。御質問でもよろしいですので、ありましたらお願いをいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

平谷市長 ないようですので、協議1の2から5及び7については、事務局説明の今後の方向性のとおり、引き続き連携して取り組むという整理でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

平谷市長 それでは、異議なしということで、連携して取り組みをしていきたいと思えます。

それでは、市全体で連携して取り組む教育施策の 国際交流の推進について協議をしていきたいと思えます。説明をお願いします。

豊田教育指導課長 議長、教育指導課長。それでは、資料の6ページをごらんください。1つ目の協議項目、国際交流の推進について説明させていただきます。まず、市長部局における取組ですが、助成事業として、在住外国人への日本語教育を行っている団体等に対する支援、海外留学生及び留学生受け入れ家庭への支援を行っています。また、各種イベントにおけるALTの参加や英会話講座の開催など、教育委員会と連携しております。次に、教育委員会の取組ですが、昨年12月の台湾嘉義市との友好協定締結を機に、インターネットを活用した交流を広げたり、金門縣の児童・生徒が来日した際の交流を実施しています。あわせて、市長部局と連携し、みなと祭の英語観光ボランティア活動を実施することにより、コミュニケーション力や語学習得への意欲の向上を図っています。

また、海外との交流に欠かせない英語力については、中学校3年生卒業まで

に英検 3 級程度以上の英語力を持つ生徒の割合55%以上を目指して、英検 I B A テストを実施し、生徒の英語力の向上を図っているところです。

次に、課題についてでございますが、英語力につきましては、平成32年度から小学校で英語が必修となることから、小学校での英語指導の充実が急務であります。まずは、小学校の先生方が不安に思っている発音指導など、音声を中心とした指導の質を担保するため、担任と A L T の T T 指導による授業時数を全体の 6 割以上にしたいと考えております。しかし、現状では A L T 1 人当たりが担当する学校数が、小・中学校合わせて 5 校から 6 校と多く、市内を移動する時間もかかることに加え、派遣計画を個別に作成しているため、学校間で A L T の派遣時数にも偏りが生じており、十分な時数での派遣が行えておりません。今後は A L T による英語の指導時数を増やしていくために、派遣形態や派遣計画の見直しを行うと同時に、A L T の増員についても検討していくことが必要と考えております。

また、国際交流に係る中学生の台湾への修学旅行については、費用の補助、保護者への理解、配慮の必要な生徒への手だてなど、考えられる課題の整理と解決策の検討が必要です。

今後、英語力の育成については、A L T の外国語授業における活用率を高め、児童・生徒ができるだけ多くの英語に触れる機会をつくるために、A L T の派遣形態の工夫をするとともに、現在の A L T を増員し、生の英語に触れる機会を増やしたいと考えております。

また、外国人とのコミュニケーションを図ることが英語力の向上に有効なため、観光ボランティアなどへの参加機会の増加についても、市長部局と教育委員会の連携をさらに深めてまいります。さらに、大学生や留学生、地域人材の活用の拡大も検討していく必要があると考えております。

海外の学校との交流については、インターネットの活用の拡大を図り、平成33年度までには市内全校での実施を目指します。さらに、中学生の台湾への修学旅行については、今年度希望校による視察研修を実施し、来年度以降はモデル校による取組と効果検証を行う予定であり、検証結果を見て、その後の全市への拡大について検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

平谷市長 教育指導課長から国際交流の推進ということで説明がございましたが、御質問、御意見等がございましたらお願いをいたします。

奥田委員 教育委員の奥田です。質問してみたいと思うのですが、尾道は今外国人の訪問が非常に増えて、まさに国際化しつつあるという状況だと思います。そういう中で、子供たちは国際的な感覚を身につける大きなチャンスであ

ると思っております。そういう尾道市を訪れる外国人の増加に対して、子供たちが生の外国の人に触れる機会をどうつくっていくのかということの説明がありましたけれども、もう少し大局的な形で子供たちが国際的な感覚を本当に小さいうちから身につけるための大きな見通しというものがありましたら、教えていただきたいということと、具体的に外国人と話をするときには、英語力をアップすることがその垣根を下げることになると思います。本市の子供たちの英語力アップに向けて、どのくらい教育委員会としてバックアップしているのか、そのあたりを聞かせていただければと思います。

平谷市長 それでは、今の質問に説明をお願いします。

豊田教育指導課長 議長、教育指導課長。それでは、英語力の向上についての今後の見通しという御質問がありました。先ほど、少し説明させていただきましたが、英検3級受験者や合格者の割合、それから英検3級相当の英語力のある生徒の割合は、現在尾道市は国の平均を超えております。英語能力判定テスト、I B Aテストを導入したことでさらに増加するなどの成果が見られております。今後小学校でも英語が導入されることから、これらの外部テストのより有効な活用や授業改善など、教師の指導力の向上のための戦略、A L Tのより有効な活用などを研究してまいりたいと考えております。

奥田委員 生徒が生の英語に触れるということでは、A L Tとの会話が一番に身近なところであると思います。A L Tの派遣のあり方を研究するとともに、A L Tの増員も考えていきたいという御説明でした。文部科学省の説明でも、A L Tをたくさん採用した市にはそれなりの予算をつけますということを知ったことがあるのですが、これからの国際化を目指して、尾道市としてもA L Tを増やして外国の人と身近に触れる機会を増やしていくという方向でよろしいでしょうか。

豊田教育指導課長 議長、教育指導課長。生の英語に触れていくということが英語力の向上には欠かせないものだと思いますので、そのためにはA L Tの増員や、あるいは地域に英語の堪能な方もいらっしゃると思いますので、そういった方を授業アシスタントとして活用していくなど、より多くの機会に触れるように検討してまいりたいと思っております。

平谷市長 A L T等の増員というのはある程度意味があることだと思うのですが、A L Tはアシスタントだから、そのアシスタントを有効に使えるプログラムのようなものがないと、例えば低学年、中学年、高学年というように、要するにそこが一番ポイントになってきているように思うのです。A L Tはアシスタントなので、主がいて私たちを助けるという意味だけど、A L Tが増えれ

ば全てバラ色とはならないので、プログラムやそれに伴う教材等の開発をしっかりとする必要があるのではないのかと思うし、そこはしっかり事務局で準備をしておく必要があると思います。逆に、幼稚園の就学前にALTを配置するというを言われる自治体もあつたり、自分たちが話す英語を理解できるような英語力をどう支えるかということですけど、尾道的にはそういったことを少し実のある形で、増員も含めて内容はこうするということをしつかり事務局の方でも検討していただければありがたいなと思います。それにかかわって何か、豊田委員さんございますか。

豊田委員 豊田でございます。教育指導課長さんから説明がありましたが、現場の担任の先生は特に英語の発音を非常に不安がっていると聞いております。そうすると、そのALTを増員するということとあわせて、特に小学校の先生方の英語についての指導の仕方であつたり、年間のプログラムやカリキュラムをどのようにつくるかとか、そういうことを教育委員会として具体的に指導をしていただかないと、なかなか進みにくいのかなということを思っておりますので、そのあたりを御説明いただけたらと思います。

豊田教育指導課長 議長、教育指導課長。それでは、教育指導課から今の件について説明させていただきます。ALTはあくまでも指導の助手ということでございますので、主は担任のほうが指導していく。そうなるように力量をつけていかななくてはいけないということだと思っておりますので、教育委員会としては、先日、日比崎小学校の教育研究会に各学校の先生方に来ていただいたり、あるいは市が主催の外国語活動の研修会を日比崎小学校で実施しております。日比崎小学校は、県の英語教育の指定を受けて先進的に取り組んでおり、外国語活動や外国語教育のプログラムも先行して実施をして、それを資料として参加した先生方に各校へ持ち帰ってもらつたり、あるいは実際に先日の外国語の研修会では教諭とALTがTTで授業を行い、担任が主で進めていくという授業モデルを示しながら、担任の力量を上げていく研究をしているところでございます。できるだけ、県の教育委員会からも来ていただき、他市町の情報提供もしていただいて、各校へ持ち帰ってもらっているという状況でございます。

平谷市長 発音は余り気にしなくても大丈夫じゃないですか。よくわかりませんが、多分音感を聞き取れる人と聞き取れない人によって、発音の仕方が大分違うのでしょうか。だから、水をウォーターと言っても通じないことがある。その辺は県も市教委の事務局も含めてよく理解されていると思う。

先ほど豊田委員さんが心配されていましたが、プログラム化がきちんとされ

て、心配ないですよという安心感を与えて先生が取り組むことをいかに事務局として学校現場に提案するかということと、A L Tの増員は、ハード的、財政的な側面からできているのだけれど、それをいかに上手に活かすように使っていただくかということになるのだろうと思います。来るA L Tが全部標準語で英語を話しているということはないでしょう。国は違うし。

一つ例なのですが、去年私が台湾でのベロシティカンファレンスというもので、自転車による環境に優しいまちづくりで尾道は非常によく頑張ったからしまなみ海道の取組を発表することになった。僕は英語はできませんよと言ったが、同時通訳をつけるから大丈夫と言われて行ったのです。その会議の司会はフランス人のO E C Dの職員でした。それから、オーストラリアのアデレードの市長、デンマークのコペンハーゲンの市長、ウィーンの女性の副市長、それと私。同時通訳は日本人で、打ち合わせの食事会的时候はみなさん意識して日本人向けにゆっくり話してもらっているので、同時通訳の人も大丈夫だったのですが、いざ会議となり、ステージに立つと、その国のなまりで話しているでしょう。みんながなまり英語で話すので、同時通訳の人は、もう市長、悪いのだけど何を話しているのかさっぱりわからないので同時通訳できない。市長、生でやってくれと言われた。

だから、A L Tで来られている人の発音がどうだとかというのはそれぞれ違いがあると思うので、そういう違いがあるということも教えてあげないといけない。きれいな標準語の英語を使おうという意識だと、なかなか難しいところがあるような気がする。ややもすると、標準語できれいな発音をしないといけないと舌を丸めて、Rはこうだとか、Lはどうだと言って、こういう指導をみんな昔中学校で受けたらう。あれは何の役にも立たなかった。その辺は多分杉原部長さんがよく御存じだろうと思うので、幅広い豊かなチャレンジをして、会話ができてできなくてもチャレンジするような、そういった生徒でいて欲しいと思います。上手にこしたことはないけれど、通訳で生活するわけではないから。そういう雰囲気も、先生方に少し余裕を持って提案してください。きれいな英語でないといけないということはないということ。その辺はどうですか。

杉原学校教育部長 議長、学校教育部長。今おっしゃっていただいたのは、本当にそのとおりだと思います。ただ、今のA L Tはあえて海外のいろいろな国から呼んでいますので、一人一人のA L Tがしゃべる英語の発音は少しずつ違いますし、表現も違います。

子供たちには、余りわかりにくい英語を提供しても意味がないので、基本的

にはわかりやすい英語です。A L Tによって少し発音が違ったり表現が違うということも含めて示しており、一般的に通じる英語、どこでも通じる英語が話せるような、そういった指導を心がけつつ、ただこれが正しいという指導にはならないように、その辺のバランスは考えて指導していきたいと思います。以上です。

平谷市長 委員さん方、よろしいでしょうか。

奥田委員 プログラムをまずつくって、どう教えるかという全体像が必要だということは本当にそのとおりだと思います。その際に心がけていただきたいのは、英語を学ぶということは楽しいものなんだという、その出会いというか、喜びを小学生のうちに感じられるようなプログラムであってほしいと思います。語学というのは、何でもそうなのですが、学問は楽しいなと思ったときに、どんどんどんどん勉強が進んでいくと思います。そのため、英語を学んだらこんな発見がある、出会いがある、喜びがあるというわくわくしたようなプログラムをぜひつくっていただければと思います。よろしくお願いします。

豊田委員 豊田でございます。先ほど市長さんがおっしゃったのですが、今尾道学園で英会話の授業をたくさんしており、それを見に行くことがあるのですが、ネイティブさんが言うには、日本の子供は躊躇してなかなか話したがない。そのところがネックですよと言うのです。3人ほど外国から来ておられますけれども、3人が異口同音にそう言うのです。そうすると、もちろん英語教育をどうするかということも大事なのですが、あわせてこれから国際社会に飛び立って活躍しようという子供たちには、まず相手に対してコミュニケーションがとれるような、そういう積極性というのですか、そういうものもあわせて、わからなくても話せなくてもいいから話す意思、関わろうとする意思をきちんと持たせることがとても大事だと思います。

それから、今外国の方々がたくさん日本に、また尾道に来ておられるようですけれども、関わらせる場が、実の場がどこかにあればいいなと思うのです。そういう場が身近にあれば、そこへ行かせて話ができます。横須賀のほうでしたか、毎週1回はそこへ子供たちを連れて行って話をさせるということを本で読んだことがあるのですが、尾道はなかなかそういう場が少ないと思いますが、積極的に英語で意思表示をして関わりを持つことができるような場づくりといいますか、そういうものが欲しいなと思います。大学生であってもいいし、いろいろな方がおられると思うのですが、そういったところも積極的に関わっていただけるようなことをしていくことも必要かなと思います。以上です。

豊田教育指導課長 議長、教育指導課長。今言っていただきましたように、英語をまずは話して、異文化の人と交流して楽しかったということの実感を小さいうちに持つことができれば、本当に英語を話そうという積極性も育つでしょうし、そういう意思も強く持つことができると、今お話を聞いて思いました。そのためには、英語の発音だけではなく、いろいろと継続して英語を話せる場の提供が教育委員会としてもできればいいと思いますので、市長部局とも連携しながら、取り組んでまいりたいと思います。

平谷市長 英語だけということではなくて、例えば中国語でもいいし、今度来られるメキシコの人だったらスペイン語でもいいのだけれど、言葉は多様にあって、その中で英語はどうしても普通だよなという感じなのだが、ほかの言葉にも興味、関心を持ったり、国際的な視野を広げていくというときに、英語はどちらかという標準語に近いという文化があるので、そういったこともしっかり教えないとなかなか難しいかもしれない。ヨーロッパの人が来たら、話す言葉が皆違うだろう。イタリア語、フランス語にドイツ語など多様な言語の文化があり、地球上でみんなが暮らしている。そういった幅広い視点も持ちながら、その中でも英語はという話をしないといけない。

台湾へ行って話をするが、台湾語は方言です。中国語でシェイシェイと言うが、台湾では言わない。タージャーハオと言うと北京語なのだけれど、台湾ではターゲーホーと言ったほうがわかる。そのような方言がいろいろとある。外国で様々な交流をしてこられ、企業を退職した人たちや、英語などの文化をいろいろと体験した人たちを学校の中へ取り入れていくということもあればいいのではないかと思います。

いろいろと多様な意見が出て收拾がつかなくなっておりますが、中田委員さん何かございますか。

中田委員 計画の中に修学旅行の話が書いてあったのですが、先ほど豊田委員も言われましたように、話す、聞くという体験の場としての集大成で、中学3年生が修学旅行に行くということが子供たちにとってもすごくかえがたい良い体験になると思います。ただし、実際に実施するとなると具体的な費用面ですとか、あと安全面で保護者の意見等々、いろいろなハードルが出てくると思うのですけれども、そのあたりは具体的にどのようにお考えでしょうか。

平谷市長 事務局お願いします。

豊田教育指導課長 議長、教育指導課長。実際に修学旅行を台湾で実施をするということになると、現在中学校の修学旅行は、各校行き先がばらばらですけれども、6万円から7万円程度でおさまっているのが現状です。昨年度、台湾

へ修学旅行に行きました尾道特別支援学校に費用について伺ってみると、2泊3日で10万円を超えていたそうでありますので、現在の行き先と比べると3万円から4万円の負担の増になると思います。

それから、安全面についてですが、保護者の方はこちら心配がすごくあると思いますので、これについては視察旅行ということで、修学旅行の実施を考えている学校の職員が今年度視察旅行に行きますので、実際に現地を見て、安全の確認を行い、実施に向けて可能かどうかということを検討してまいりたいと思っております。

中田委員 その費用の中にパスポートの取得費用も入っていますか。

豊田教育指導課長 議長、教育指導課長。パスポートの取得の費用については、入っておりません。旅行費用だけの見積もりです。

村井委員 尾道は海外からの観光客も多いし、そうやって市を挙げて国際化社会に取り組んでおられるので、教育委員会としても市長部局と連携して、子供たちに多くのチャンスを与えてグローバル化に対応をする力をつけていけばよろしいかと思えます。

平谷市長 それでは、それぞれ今の国際交流の推進について意見を言っていたいただきましたが、この国際交流の推進については、恐らくこれから市も教育委員会も大きな取り組みになると思います。リタイアした人たちが、学びの場としても一度英語を勉強して自分の視野を広げたいという取組もされていたり、それは英語に限らず中国語であったり、スペイン語であったり、様々な分野で対話を増やしていこうという取組になることが求められていると思います。これから教育委員会も市長部局と連携して、とりわけ小学校で英語の必修化ということがありますので、ALTの増員とか派遣の回数、そういったものをこれから私どものほうもしっかり受けとめて取組をしていきたいと思っております。

それから、今のようにAIであるとかITであるとか、さまざまな分野が日進月歩です。今は2歳の子がタブレットを使ってユーチューブを見て、遊んでいます。昔では考えられない時代になっているということです。そういう意味では少し整理をする必要があると思います。修学旅行先として台湾を計画をされているということですが、先ほど、中田委員からございましたが、費用等の問題、行く時期、そしてそれが最も効果的になるように、市が補助をするとしても説明がつくことが求められていると思いますので、今後とも連携していくという方向でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

平谷市長 それでは、就学前教育や放課後対策に関する連携の推進についてを

次に協議したいと思います。

説明をお願いします。

豊田教育指導課長 議長、教育指導課長。それでは、説明をさせていただきます。資料の12ページをごらんください。6つ目の協議項目、就学前教育や放課後対策に関する連携の推進について説明させていただきます。まず、市長部局の取組ですが、認定こども園の設置推進や認定こども園、保育所施設の整備を行い、子育て支援体制の充実に取り組んでおります。放課後対策としては、放課後児童クラブを実施しております。保護者が就労等により昼間家庭にいない児童に対し、授業終了後に空き教室などを利用して適切な遊びの場などを提供しております。続いて、教育委員会の取り組みですが、放課後対策として放課後子供教室を開設しています。地域の実情に応じたプログラムを企画し、家庭や学校活動にはない体験、交流活動を提供しています。また、就学前教育の一層の充実を図ることを目的とした尾道つくしプランを平成22年に策定しております。

現在、放課後子供教室実施校は11校にとどまっており、市全域の児童に地域の方との交流や体験活動を行うため、また児童クラブとの連携を深めるためにも、子供教室の開設を推進してまいりたいと思います。しかしながら、放課後子供教室に対するニーズがなかったり、ニーズはあっても、体験、交流活動を提供できるボランティアの確保が難しいといった課題があります。今後、教育委員会としては人材育成と人材確保に努めるとともに、放課後子供教室の開設を推進し、引き続き市長部局との連携を密にしながら、放課後児童クラブと放課後子供教室の連携を強化してまいります。

また、国、県が幼児期の終わりまでに育てほしい姿を明確に示すなど新たな方向性を打ち出しており、現在のつくしプランの見直しが必要と考えます。そこで、国、県の方向性を踏まえ、就学前教育と学校教育との円滑な接続を図るため、現在の尾道つくしプランの見直しを行います。

このことについて簡単に説明させていただきますので、資料の13ページをごらんください。近年の少子化、核家族化、都市化、情報化などの社会状況の変化に伴い、子供たちに基本的な生活習慣や他者と関わる力などが身についていないという課題があることを踏まえ、このたび国においては幼稚園教育要領、保育所保育指針などが新たに出され、幼児期の終わりごろに育てほしい姿が具体的に示されました。また、広島県においては「遊び、学び、育つひろしまっ子！」推進プランが策定されており、乳幼児期の育ちのあり方が明確に示されております。尾道つくしプランは、学びの基礎づくり、豊かな人間性づく

り、安心できる子育て環境づくりの3つの観点で作成しておりますが、具体的な施策の内容が現在の実態と合っていないところもあるため、それぞれの施策と目指す子供の姿をつなげた形にすることを目指した見直しに取り組んでまいりたいと思います。説明は以上でございます。

平谷市長 それでは、御意見、御質問がございましたらお願いをいたします。

村井委員 放課後児童クラブは全校で行われているのでしょうか。

村上参事（少子化対策担当） 議長、少子化対策担当参事。放課後児童クラブの実施状況に対する御質問でございますけれども、現在百島校区を除く全ての校区において開設をいたしております。したがって、小学校6年生までの全ての児童の利用が可能という状況でございます。

平谷市長 ありがとうございます。そのほかございますか。

豊田委員 豊田です。放課後子供教室と放課後児童クラブ、この2つが同じ学校に置かれていて、放課後子供教室で地域のいろいろな歴史を学ぶときには放課後児童クラブの子供たちも一緒に話を聞くとか、そういった運用面でもっと一体的にできることがあればと思うのですけれども、いかがでしょうか。

村上参事（少子化対策担当） 議長、少子化対策担当参事。放課後子供教室と放課後児童クラブとの一体的な運用についての御質問でございますけれども、現在浦崎小学校におきまして、放課後子供教室と放課後児童クラブの一体的な運用を行っているところでございます。具体的には、放課後子供教室終了後の児童が、引き続き放課後児童クラブを利用するという形態で運用をしております。放課後から午後6時までの間を、同じ指導員が切れ目なく運営をしていくという形態でございます。

また一方で、向島中央小学校では英語で遊ぼうとか、あるいは工作で遊ぼうというようにテーマを決めまして、年1回ずつ土曜日の午前中に2時間程度の合同行事を開催しまして、放課後子供教室と放課後児童クラブの連携を図っているところでございます。引き続き教育委員会との連携を密にしながら、両事業の連携や一体化を推進してまいりたいと考えております。

安保生涯学習課長 議長、生涯学習課長。放課後子供教室については、就労支援などで枠が全然ありません。放課後児童クラブに入っている子が放課後子供教室を受けてもらうことについては問題ありません。そういったことから、現在向島中央小学校と浦崎小学校で連携しているところでございますけれども、放課後子供教室については、先ほど説明しましたように、まだ11校のみの開設で全学校にわたっての開設には至っておりませんので、これを全校に広げていくため、子育て支援課と連携をとって推進してまいりたいと考えております。

平谷市長 そのほかございますか。

村井委員 保育所や認定こども園での保育については、日曜日は休みで土曜日でも家で面倒を見られる人は見てもらうということらしいのですが、日曜日にどうしても預かってもらわないと困るという場合は、尾道ののぞみが丘保育所で実施されており、因島の保育士さんも交代で勤務していると聞いておりますが、尾道まで行かなければならないのであればちょっと使い勝手が悪いので、因島にもあればという声をよく聞くのですが、その辺はどうなのでしょう。

村上参事（少子化対策担当） 議長、少子化対策担当参事。日曜日、あるいは祝日の保育所が開設していない日の保育でございますが、私ども休日保育と事業名は呼んでおりますけれども、現在市内で1カ所だけ公立で休日の保育を実施しております。おっしゃるように、なかなか1カ所では利便性も低いということもございます。島嶼部でどこか1カ所設置が必要ではないかということで、これまで設置について研究を進めているところでございます。引き続き研究をしてみたいと思っております。

村井委員 よろしくお願ひします。

平谷市長 そのほかございましたらお願ひします。

中田委員 尾道つくしプランの見直しの資料では、国が示す10の姿と、県が目指す5つの力が載っておりますけれども、これらの見直しのイメージとして、尾道市ではどのような関連性を考えておられますか。

豊田教育指導課長 議長、教育指導課長。国と県では少し表現の仕方や項目の設定の観点は異なっておりますが、最終的には目指す姿として、両者は関連しているものと捉えております。国が示した10の姿は、小学校との連携を進める上でより具体的なものでありますし、県が示す5つの力は、幼児期に身につけさせたい力としてイメージしやすいように工夫されていると思います。つくしプランの見直しにおいては、プランで示す施策とその目的を整理し、体系化していこうと考えておりますので、どちらにしてもその中に入れる必要があると今のところは考えております。

平谷市長 よろしいですか。

中田委員 その体系化した図も、教育関係者だけではなくて保護者にもわかりやすいようなイメージのものに検討していただければと思います。

豊田教育指導課長 はい、わかりました。

平谷市長 保護者にわかりやすいものにとということと、国と県の内容は体系化して、同じ方向ということで整理をしていただくようお願いいたします。

その他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

平谷市長 それでは、ないようですので、就学前教育や放課後対策に関する連携の推進は引き続き、厚生労働省と文部科学省によって制度が違うのですが、方向としては一体的な運用の方向で国も検討すると言っているようでございますので、国や県の動向を踏まえて、現代の課題に対応するようよろしくお願いいたします。

幼稚園、保育所、認定こども園が共通認識を持って就学前教育に取り組むため、尾道つくしプランの見直しも検討していかなくてはなりませんので、今後ともよろしくお願いいたします。

そういうことでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

平谷市長 それでは次に、協議2の学力の向上についてを議題といたします。

説明をお願いします。

豊田教育指導課長 議長、教育指導課長。それでは、資料の15ページをごらんください。2つ目の協議項目、学力の向上について説明させていただきます。ここ数年、各種学力調査の結果については、県内の他市町と比較しても尾道市では大きな課題があることから、学力向上は大きな課題であると捉えております。今年度の状況は、小学校が国の調査で県内の市別では最下位と厳しい結果となりましたが、中学校においては平均正答率が県平均程度まで上昇し、また県の調査においては、小学校の県内における位置が上昇するなど改善の兆しも見え始めているところでございます。教育委員会においては、授業改善、家庭学習の充実に力点を置き、各学校の調査結果を分析し、改善計画に基づいた取組を進めるとともに、読書活動の推進や情報化、国際化への対応の推進にも努めているところです。

16ページの資料は、これらの取り組みの課題と改善策を整理したものです。まず、の学力調査に見られる課題については、調査結果の分析から、小学校低学年からの基礎学力の定着が不十分であることが要因の一つであると考えられます。また、教員の若年化などにより、単学級の小学校では学習進度や指導内容の確認が共有できにくく、中学校では教科の専門性を高める研修や機会が不十分であるという課題もあります。

の家庭学習については、これまでに手引きの例を作成して配布をしたり、研修会などで各校の実践を交流したりする場を設けてきましたが、家庭学習の時間が少ない課題の改善には至っておりません。

の読書習慣の定着については、学校司書4名を20校に配置し、学校図書室

の整備や本の紹介を行ったり、またルピナスなどの読書ボランティアの皆さんに御協力をいただきながら取り組みを進めているところではありますが、1カ月に1冊以上本を読む児童・生徒は、小学校は約9割、中学校は約8割と、国や県の平均を下回っております。

のICTの活用の頻度は、教員個々の力量や学校環境に委ねている状況であり、教員個々の指導力にも大きな差が見られることから、ICTの効果的な活用事例の蓄積とタブレット端末の使用を促進できる環境整備が必要であります。

の英語力育成については、先ほど説明させていただいたとおりです。

そこで今後、の学力向上については、低学年を対象とした学力調査を導入し、つまずきを早期に発見し、課題解決に向けて計画的に指導が行えるよう環境整備を行ってまいります。さらに、模範教員の授業観察の場や教材研究などについての相談が効果的に行える仕組みづくりを行うことを検討していきたいと思っております。

の家庭学習については、時間などの目安を示し、実行させるなど、校長会と連携して市内全体で共通的に取り組む具体的な内容を明確にすることを検討しています。また、家庭学習については、内容の工夫と同時に家庭の協力が不可欠ですので、市P連とも連携しながら家庭学習の重要性についての啓発を進めてまいります。

の読書については、現在20校に4名の学校司書を配置していますが、それ以外の学校からも配置の希望があることや、子供たちが進んで読書ができる環境を整えるために、来年度以降は増員し、全ての学校に学校司書を配置したいと考えております。また、大人も子供も一緒に本を読む環境づくりを進めていくために、学校、家庭、地域を巻き込んだ読書習慣定着に向けた仕掛けについて研究してまいりたいと考えております。

のICT活用については、タブレット活用モデル校を指定し、ICT支援員を派遣して、ICTを活用した効果的な授業を開発する取組を進めていく予定です。また、ハード面においては、校務用パソコンをタブレット型へと段階的に移行することにより、教員がより利用しやすい環境整備をすることも検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

平谷市長 質問と御意見がございましたらお願いをいたします。

奥田委員 教育委員の奥田です。何点か質問させていただきます。本市の基礎・基本調査においては、なかなか結果が出ていないというのがここ数年の状況です。それを受けて、どのように生徒の一人一人の学力を向上させるかとい

うことが大きな課題になってくると思います。ここで教育委員会が打ち出されているのは、一つには小学校低学年の基礎学力定着が不十分というものがあります。本当に基本的な学力をしっかりと、読み書きそろばんではないですけども、読み、書き、計算する、そういう基本的な能力が定着しないと全ての学力の基本になりますから、ここを徹底させるということは非常に大切なことです。学力調査を考えているということですが、もう少し具体的に、小学校1年、2年、3年で行うのか、あるいは全ての小学校で行うのか、またそれをどのように活用していくのかというところの説明をお願いしたいと思います。

2点目ですが、学習習慣定着が不十分という説明がありました。やはり授業の予習や復習、勉強に向かう姿勢を日常の中でつくっていくというのは大切なことだと思います。尾道の子供たちの目指す姿では、家庭学習時間が1時間未満の生徒を20%以下にするという目標を立てておりますが、現状ではまだ小学生では28%、中学生では29%がほとんど机に向かっていないという状況があるとのことです。これが経年的に見てどうなのかということもありますけれど、基本的には全員の生徒にそういう習慣をつけるということが一番大切なことだろうと思います。そのときに、説明にありましたが、家庭での学習の定着を目指すための時間の目安を示しながら、PTAなどと協力しながら進めていきたいという話がありました。具体的にどういう目安を持って進めていきたいと思われるのか、その2点をお伺いしたいと思います。

平谷市長 お願いします。

豊田教育指導課長 議長、教育指導課長。まず低学年を対象にした学力調査の件でございますが、これについては、まず1年生から3年生を対象に行いたいと思っております。5年生、6年生は県、国、4年生は既に市で実施をしておりますので、3年生までを対象に、全ての学校を対象に行ってまいりたいと思っております。これまでは独自に学力調査を行っていた学校もありましたので、市全体で学力調査を実施することによりまして、教育委員会としても学校の傾向が把握できますので、その情報を事前に得ることで、学校への個別の指導や支援に活かしてまいりたいと考えております。1年生から3年生を対象に、年度の終わり、3学期の初めまでに実施したいと思っておりますので、そこで把握することができた未定着のところについては、繰り返し指導を行うなどして、次の学年が始まるまでには確実に定着をさせていきたいという趣旨で導入を考えております。

それから、2点目の学習に向かう姿勢に関してでございますが、時間の目安としては、小学校では学年でプラス10分だとか、高学年では1時間とか、中学

生では学年で1時間ずつとか、それぞれ学校によって曖昧なところがありましたので、その辺は校長会とも連携をとりながら、基準の目安などを探っていきながら、市内で共通的に時間の目安を示していきたいと思います。これまで、各校ごとに十分な確認ができてなかったもので、継続的に取り組んでいるかどうか把握していきたいと思っております。

平谷市長 よろしいですか。そのほかございますか。

豊田委員 豊田でございます。先日、学力が大変高い県の秋田県、福井県、石川県がなぜそのように高くなったのかという本を読みました。その中で幾つかヒントがあったのですが、まず1番は、授業をきちんとした授業にする。それは秋田県の例でしたが、40歳から50歳の年齢層の教員が80%から90%おられるようです。若い先生が少ない。そうすると、ベテランの先生たちなので指導が非常に徹底しているということを読みました。年齢については、ここでどうすることもできないですが、私が思いますのは、尾道市も若い先生が今大変多くなっています。若い層と40歳以上の層の二山のこぶがあると思います。教育委員会はいろいろと研修を組んでおられて、そこへ行って勉強するというのも大切なことなのですが、学校内で年齢の高い先生たちが、自信と意欲を持って後輩を育てるということが、もっと強く出てもいいのではないかなと思うのです。

では、どうするのかということなのですが、校長会などを通して、熟練された技を持っていらっしゃる先輩の先生方が学校の中にきちんとした位置づけがあり、そこで若い先生たちをしっかりと指導していくということが今必要なのではないかということ強く思うのです。少し遠慮して引いておられるようなことも聞きますし、逆に若い先生が育ち、めきめきと力をつけている学校は、やっぱり先輩の先生たちが苦口も言うし、きちんと指導するという体制の学校が幾つかありますけれども、そういったことが必要なのではないのかなと思います。

それから、2つ目ですけれども、今広島県が課題解決学習を進めていますが、もう少し課題解決学習に向けて学校の中でしっかり研修ができ、若い先生たちも教わりながら実践していけるシステムがあればいいなと思います。さらには先ほど低学力という問題がありましたけれども、例えば各学校で夏休みにドリルを作るぐらいの意欲があってもいいと思います。ドリルといっても、例えば2年生では掛け算ができにくいとか、分数ができにくいとか、幾つか課題がある学年もあるのですが、そういったことを加味して、問題はたくさん作らず少な目にして、繰り返し繰り返し行える学習で、先生たちが自作してそれを

やらせる。全学年作ってあれば、6年生で3年生のところが分からなければ、3年生の教室にあるものを使う。実際にやろうということになれば、先生方に作る力は十分あると思うのです。教科書をもとに作ればいいわけですから。そういった意欲とといいますか、改善とといいますか、そういうところをぜひぜひと思います。以上です。

豊田教育指導課長 議長、教育指導課長。まず、若い先生の授業力を上げていくということで、先輩やベテラン教員の力を学校の中で日常的に活用できないかという内容であったと思っております。

一学年に複数学級あるような大規模校では、学年主任がその任を果たして、自分の授業を見せたり教材を準備したりということで一緒に授業をつくっていくという雰囲気はあると思います。そういった学校へ行きますと、若い先生でも、初任者でもしっかりとした授業ができているという印象はあります。ただ、そうでない単学級の学校においては、そういった日常的な支援が若い先生へもできていない。モデルをなかなか見ることができないということがありますので、その辺については、市内でも学年部での研修を充実させたり、また管理職なども含めて若い先生に授業をしっかり見せられるようにということで、校内での研修も含めて若い先生を中心にした授業力の向上を意識をして取り組むように、また教育委員会としても指導してまいりたいと思います。

それから、各校でドリルのようなものを作って学校全体で授業力を上げていくという取組が必要ではないかという御指摘をいただきましたが、過去私なども成果が上がったときにはそういうものを積んで棚に入れて取っていくということを行っていたこともありますので、そういったことが学校でどの程度できるかということも、校長会ともしっかり連携していきながら、具体的な方策について検討してまいりたいと思います。

奥田委員 先ほど豊田委員さんが言われました、若い教員にベテランがしっかり指導することが必要だということはそのとおりだと思いますが、この資料の現状のところに、教員の若年化による指導力の低下と書いてしまうのはどうなのかなという感じがするのです。私の経験からも、若い先生というのは、1年目は不安かもわかりませんが、なれた先生になりますと、2年目からは先輩からどんどん吸収して、もう3年目には同僚に追いついて、4年目にはベテランを追い越すという新任の教員を何人も見てきました。そういう若い先生の伸びしろはものすごくあって、それをうまく活かしている学校はすばらしい学校経営ができていると思うのです。ですから、私は豊田委員が言われたベテランの教員が若手を指導することにプラスして、管理職がしっかり若手を教育

するという必要なのではないかと思えます。校長、教頭あたりがしっかり若手をサポートする体制、方向性を示すという学校体制を作っていくことが若い力を伸ばしていく。若い先生方は財産ですので、しっかり活躍してもらうことが一番大切なことではないかと思えます。この文章の書きぶりがどうなるかわからないのですけれど、若い先生方の指導力がと書くことに私は抵抗があるのですが、いかにしてそういう若い先生方に伸びて頑張ってもらおうかというものを作ることが教育委員会の仕事ではないかなと思えます。

平谷市長 この教員の若年化等による指導力の低下という表現は適切ではないという思いはします。先ほど奥田委員が言われたように、とにかく若い人が教員になって情熱を持っているときに、いろいろな形で吸収したいと思っているときに、しっかりと吸収させるものを校長、教頭、学校が一体となってサポートすることが、高齢になって固まってしまった人よりもはるかに伸びしろがあるように思えますので、逆に若い人たちに期待をするという姿勢があるほうがいい。

それから、授業が勝負であるのは昔からよく言われているので、それに対して学校全体としてそういう雰囲気になることが求められているのではないかと思えます。学校が明るく楽しく、授業も楽しいというような、素朴にそういう雰囲気が必要と思えますから、ややもすると、こういったマイナスのようなことばかりを書くのではなくて、楽しく明るく元気というような雰囲気になるように、その文言も検討していただければいいなと思えます。

そのほか、何かありましたらお願いします。

中田委員 児童・生徒の現状課題の中で、低学年の基礎学力の定着ですとか家庭学習の定着が上げられておりますけれども、先日ある幼稚園の公開研究会に行かせていただいたときに講演を聞きました。その先生がおっしゃるには、先ほど出たつくしプランの就学前の取組の重要性なのですが、情操教育というところもあるのですけれども、実は学びに向かう姿勢を定着させることがすごく重要であるということをおっしゃっていたので、改めてつくしプランの就学前の取組が、いかに小学校に入ったときの低学年の段階で影響があるかということをお聞きいただきました。その辺も踏まえて、幼稚園、保育園の先生だけではなくて小学校の先生にもその辺の御理解を得て、幼・保と小学校が連携すれば、低学年の学力定着ですとか家庭学習の定着に結びつくのではないかと思いました。質問ではなく意見です。

平谷市長 とかく議論されるときに、学力というテストの点数だけを評価してという論調が多いのだけれど、中田委員さんが今言われたように、学びに向か

う力ということもある意味大切な話だと思います。そうすると、就学前教育は、義務教育に入っていく段階でその力をつけておくということで、昔から3歳では遅過ぎると言われたように、家庭における教育環境とか愛情ということが子供たちが育っていくベースになると言われているので、就学前教育を含めて、テストは一つの結果として出てくるのだけれど、それにもっと向かっていく力のことを大切にすることにもつながるのかなと思いました。

そのほか、村井委員さん、何かございますか。

村井委員 家庭学習が必要だ。大事だと言われているのですが、本を読む習慣が少なくなってきたということ、その読書の習慣を定着させるには、家庭とか地域、保護者の理解が大変必要なのではないのかということですが、その家庭や地域に協力してもらって読書の習慣を定着させるという、何か具体的な取組がございませうでしょうか。

豊田教育指導課長 議長、教育指導課長。具体的にはこれからでございますが、生涯学習課や図書館、それから学校に来ている学校司書と相談しながら、どんな取組がよいのか検討していきたいと考えております。その結果、読書の推進が尾道市全体の取組になれば、もっと子供たちも読書習慣が定着していくのではないかと考えております。

村井委員 家庭学習についても読書についても、学校任せではなくて家庭や地域を巻き込みながら市全体が高まっていくような体制が必要で、それができたらいいと思います。

また、学校や先生方は日々努力していると思いますが、大変忙しくて何とかならないのかという話も聞きますが、行事などを見直して先生方が余裕を持たれるような手だても必要と思いますが、いかがでしょうか。

豊田教育指導課長 議長、教育指導課長。先生方がまずは余裕を持って子供たちに向き合うということが大事でございます。そのために、業務改善をしながら子供に向ける時間を捻出したり、あるいは行事などに向き合う時間の配分などもあわせて、先生方がとにかく子供たちに向き合う時間を少しでも確保できるように取り組んでまいりたいと思います。

平谷市長 それはなかなか難しく、今いろいろなものが大変だ大変だという声があるのだけれど、そんなに大変なのかと思うことがある。自分がやってきたことから思うと、今はものすごくスリムになってきており、その辺を一つの言葉だけで言うのだけれど、何が大切なのかという課題を少し整理整頓してみ、今のようにオブラートに包むのではなく、具体的にこの部分を切ったら時間が短縮でき、学校全体がスリムになるというような、そういう具体的な何か

をしてあげないとなかなか難しいところがある。昔でいえば、全部手書きで書いていた。今は、コピーという機能があるので写しはばっとできるが、そういう業務なのか、どこが忙しくてどうなのか。すぐに教育委員会からの資料提出が多いという。それも一生懸命県からいわれて事務の整理をどんどんしているはずなのに、同じ言葉しか聞こえてこないから、具体をしっかりと現場とよく話をされて、村井委員さんが言われたようなところ、一番核になるような部分、ことここを整理しようということが必要なのではないかと思います。

もう一つは、例えば甲子園を目指すとか、あるいは全国大会に行こうという連中は、満足感、達成感の自分における評価の軸が違うところにある。だから、しんどいとかという評価の軸をどこに置いておくかによって人によって違いがあり、その辺も全部まとまった形ではないと思うので、それも踏まえて整理をしないといけない。逆にやる気のある先生の足を引っ張らないように、例えば自分たちはしないのに、おまえが土曜日や日曜日にクラブ活動をするからという話になってくるとまた違うことになるから、強弱のある取組は必要な気がするので、その辺も現場とよく話をしてほしい。

村井委員 学校の先生の転勤の式に時々行くのですが、先生が挨拶をしたり壇上から降りてきたら、子供がきゃあきゃあ言って、先生行かないでくれと言う子供もいる。でも、挨拶しても何も反応のない先生もいる。それは子供が悪いのではなくて、その先生がいかに子供たちと関わったか、一生懸命やってくれたかということのあかしだろうと思うのです。全然子供が反応してくれなかった先生は、そういう光景を見て、次の学校へ行ったらこうしようと思わないのだろうか。

平谷市長 大体そういう先生のほうが、事務が多い、仕事が多いという。私の体験からいうと、そういうタイプの方がやや多い気がします。

読書というのも、尾道は、例えばブックスタートとかブックスタートプラスとかの取組をずっと行っている。子ども図書館も、合併した御調、向島にあり、因島や瀬戸田も環境づくりはしてきているのだけれど、それが家庭の中で読書をする習慣になっていないところがある。では、そういうことをどこがすればいいのかは、ちょっとまた専門の人たちと話をして具体のプランニングを出されるようにしたほうがいいと思う。図書館をやられている方は、もう必死に本を読んでほしいという気持ちなので、そういう人たちと学校司書の数や全体としてどうしていこうかという話があったらいいと思うので、検討していただきたい。

佐藤教育長 議長、教育長。先ほどの村井委員さんの話にあったのですがけれど

も、みなと祭であるとか音楽コンクールであるとか市を挙げて取り組むものについては、地域の中にある学校ですから当然学校も主体的に参加をする。今学校現場において幾分困っていることは、地域の中で学校に期待されることがだんだんエスカレートする中で、各地域の行事に学校が引っ張り出され、その中でいろいろな準備とかに追われる。これは地域によっても違うし、地域との結びつきにおいても違いますが、市全体を挙げて行うことと、地域の中にある学校としてのつき合い方、この辺が学校の中で多少温度差があるのですけれども、負担感に思うところも幾らかあって、この辺の整理が必要かなと思います。

平谷市長 それはぜひ整理をしてあげてください。何でもかんでも、学校へということがあるので、そういうことも悪い話ではないのだけれど、実情を話して理解をしていただくということが必要なのところもあるのではと思います。

そのほかにございましたらお願いします。

佐藤教育長 議長、教育長。学力の向上に関連して、学校の環境改善の説明を事務局からしてもらいたいのですが。

安藤主幹（学校施設整備担当） 議長、学校施設整備担当主幹。教育環境の改善の観点から、これまでの熱中症対策についての主な取り組みと今後の空調設備の整備計画について説明をさせていただきます。

まず、これまで市教育委員会におきましては、熱中症対策としまして小・中学校の普通教室、特別教室への天井扇風機の設置、また図書室、コンピューター教室への空調設備の設置に加えまして、風通しのよくない普通教室や健康面において特別な配慮を必要とする児童が在籍している教室への空調設備の設置、そして試験的に校舎の窓ガラスへの遮熱、断熱フィルムの設置など、熱中症対策をいろいろと講じてきたところでありますけれども、抜本的な解決策とはなっておりません。このため、児童・生徒たちの健康面、学習効率などを考えますと、全ての普通教室、特別支援学級などへの空調設備の設置は必要不可欠と考えております。

学校環境の衛生基準によりますと、望ましい教室の温度は、夏は30度以下とされておりまして、市教育委員会がこの7月と9月に小・中学校の普通教室の温度調査を実施しましたところ、1日の最高気温は30度以上となっておりまして、うち4校については35度以上という状況になっておりました。市教育委員会としましては、猛暑が続く夏場であっても、児童・生徒たちが健康で学習できる教育環境を実現するため、空調設備の導入に向けて現在調査検討中でありまして、来年度設計、施工に着手し、平成31年8月末の完了を一つの目

途として、引き続き市長部局と財源確保等含めて協議を進めたいと考えております。以上です。

平谷市長 ありがとうございます。そういう方向で市長部局と検討していくこととなりますが、この間の議会で話をさせていただいておりますから、できるだけ早い段階で取組をしていきたいと思っております。

ほかにございませんか。

豊田委員 今年度の音楽コンクールですが、小学校全部と中学校全部を聞かせていただきました。本当に児童・生徒の歌声は甲乙つけがたく、本当にすばらしかったと思えました。審査員の先生が今年は代わっておられましたけれども、全校が取り組み、これだけの歌声を聞かせることができるところは他には類を見ない、すばらしい取組ですねとおっしゃっていました。

それから、先日県の音楽大会が向島中央小学校であり、行かせていただきましたが、すばらしい音楽授業でした。栗原小、向島中央小、日比崎小が児童を連れてきての授業でしたけれども、歌声もすばらしいし、日比崎小が行っていたのは、ええじゃんの間奏をどう作るかということでした。地域のものを取り上げた授業は本当にすばらしかったです。尾道市が音楽教育を充実させようと長く取り組んできていると思うのですが、それなりの成果は上がっていると思います。卒業式や入学式で歌う歌を以前は何回も練習していたのですが、最近では歌うことが日常化してきたので、余り練習をしなくても子供たちが意欲的に良い声で歌えるようになっているのです。そういうところから、学力を考えていけば、継続して取り組んだ結果、音楽の力はすばらしく伸びてきたと思います。ですから、そういうことを教科の中へ連動させていくような営みを地道に続けていけば、もっと学力が上がっていくのではないかと楽観しているところもあるのですが、取組の継続性ということが大事ではないかと改めて思いました。以上です。

平谷市長 今豊田委員さんが言われたとおり、本当に力をつけてきているなということは実感として思いますし、高等学校の校長先生方は、うちの学校の生徒は、練習しなくてもよく歌うと言っている。小学校、中学校での取組を重ねてきているので、それはそうだと思います。だから、取組を継続したことと指導する側の力、先生方のおかげだと思いますが、やっぱり褒めてあげないといけないと思います。

もう一つ、若い先生の力だと思うのは、みなと祭のときにのええじゃんの踊りで、曲の間の間奏の仕方が以前と全く違う。音楽のリズムを取り入れて、合いの手を入れて踊ったり、声の入れ方やパフォーマンスの仕方が、始めたこ

るに比べたら、すごく芸術性が豊かな取組になっているので、そういう評価の視点を持って、何か悪い悪いと言うよりは褒めて褒めて頑張らせるということも必要だと思いますので、そういうことをぜひ学校現場に伝えてあげてください。

そして、教育環境整備は教育委員会と市長部局で連携して取り組むのですが、長期休業中の子供の生活の仕方、休み方を保護者の方たちと連携して、どのような形がいいのか、今日の新聞に載っていますけれど、キッズウイークを設けて何かしらの取組をするということもあるのですが、働き方として夫婦で共稼ぎをされている方もおられるので、長期休業中の新しい尾道の生活の仕方も考える必要があると思います。

そのほかございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

平谷市長 それでは、ないようですので、協議2、学力の向上については引き続き教育委員会と連携して取り組み、充実させてほしいということだと思います。また、家庭や地域の協力が得られるよう、市長部局を巻き込んだ市全体の取組をこれからも考えていきたいと思いますので、教育委員の皆様方には、それぞれまた適切な御意見等をいただきたいと思います。

そういうことでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

平谷市長 それでは、予定をしておりました内容についての協議は終わります。

そのほか、委員さんから何か御意見等ございましたらお願いをいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

川鱸庶務課長 それでは最後に、会議の主宰者であります平谷市長から、本日の総括等がありましたらお願いをいたします。

平谷市長 先ほど話をさせていただいたように、とにかくまちづくりというのは人づくりで、尾道の町で子供を育てたいと思っていただけるように、町全体が子育てに対して明るくて元気で楽しいという雰囲気にならないといけない。御調から瀬戸田までのロケーションの中、この景色の中の尾道は、本当に子供を育てるにはすてきな環境だろうと思います。そういった良さをもっと全面的に共有して、悪いことや点数だけを言うのではなく、子供が豊かに自分の将来、人生を築いていける力や、ふるさとに対して愛着を持ってここで仕事をしたいとかふるさとに貢献したいと思う心を育む必要がありますが、今日、中田委員さんが言われた学びに向かう力、生きていく力ということが重要だと思

うのです。就学前から義務教育、それから大学教育に至るまで、さまざまな形で担っていただいている教育を、全てにわたって充実していくことが尾道の発展につながると思いますので、また関係者の皆様方と力を合わせ、意見交換をしながら取組を進めていきたいと思いますので、今後とも引き続きよろしくお願いいたします。

川鱸庶務課長 以上をもちまして平成29年度第1回尾道市総合教育会議を閉会いたします。

ありがとうございました。

午後4時15分 閉会